

西洋道中膝栗毛

二編下

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 JAPAN 1



西洋道中膝栗毛二編下

東京

假名垣魯文戲著



去程小跡近郎北八の二側の被纏舎の大石可
有き處藏と不快しが御の性多のぞまつらむ却て
氣ひの種とあり再呑あゆふ夜を更一晝日遅く
紀事より處居の日をあく無已の支那人を遣
國の申傍んと今朝もやく他出せ)とゆうよりゆ
クへ後故小絶かく通無段の通近郎をやうのじく

建安の城下と波加岐祖見あせんと建合ひしワ
通に廓の居るよ至るに一人りの支那人通は廊
とうち傍ひ居るへ蓋ての駕籠とえめればあんがあ
あん小目れもれがあみ跡下キニ通え駕籠はてりあら
人乳をえあんまうれ
多和へうあけこりあらは方も市中をちうとがら
つるえやあやア福へ通あらも今あら方を
篠引くあきとさめやうと思つてゆる如へこの南系
さんか様はうちの和己サセテから達す昨日

暮る鳴を聞いてたゞぐくどきろくまら鹿をまへる
北一どうだく歩けタマ一通大よしくトキニ山南
あさんハ寿老家の因出度やの岩松とり女郎扇
の晴人ふとらまくわる隠海さんとりふんぞとく
けださら常中紫内不けんとたのむとあらわじ
だらう跡をうひき妙ヲウライト北サア一もに進
駕く通マアあづふあむ人余の者ほまと我も行

あれもゾウでうるせ人のまゝ女どもが寝てゐると見え
達ひきだれぬづらヨ北モシ藤さんざう
あねえひややストコモモをあくまを
かともトヒキタリセんをたちのあらそとまちあらの爲を
北ヲヤクニの家の高臺づらう暖簾よあふう
書いてゐりてその頬店アあんでも大店づら
ヨイサヤアハドレしては家が大店と云つての門
でも此の店と肴板とゆづかく位おやア拖の

書人並び多勢集つてともゐるンだらうベラボラ
やそのよふ一字からくあるのを讀移からそんみ
處云トミをちらアあいやア別頭店と云ふのと日
本の鬟結庵づらハジアる御鬟結庵が別頭店
湯屋づれ湯店若あゲそんつてんぐ懐中がちう
そんづんがまてもまれらアコウノ北やうの云へ
文家の云だらうちくことと云ふとけ一坊主ふ
矣それせ生波ふよゐるありあんぞんよをづり

かきゆへとよどあつたらソウトあれふまけ外イハダ
船ヨイテラヨ北「ヤもやたまふるそく」とおツク強
響セイ不幅カタをさうむせそんあらむよの生薬庵の
青桜シオノリよ書シテくある家トのほと競カミのモ「ドレク」
われうコトあれひアセスム日中ヒナツの家引トあ
あん手ト字シテハ移シフケルやア大繁カクハスけ云シの作家カバだら
死シテアリシテ廻マサニをとすむひシびんふあらシ家トのシれ
ひえま那ナから渡シつルおぢやア移シフくルそれふからシの

字ト引シテみの日中ヒナツの家引トと分離シキハ五カタと名
せル「イヤ字シテの後アフタこののまシ那ナからおぢやアセスムそ
あら移シフケルごロヨメ「イヤ後アフタの御ミのコトシトシく
ひきのアガア日中ヒナツビシリシだシかわればハ百ハシ
トアをシめシくシとシくシ人ヒトのシるシ北ヒタチ
支那人シナヒトと通シテ處シテのあシをシなシ「それシ近シさせシくシハ平氣ヒラキ
の絲シ絹シ郎シどんシとシてシまシるシはシくシも連シよシ
ろシをシせシゆシ引シテかシくシ字シテ織シあれシ形シまシをシも
あシいをシ絹シ郎シのシの町人シタヒト女郎シタガール冥カイのシもうシ。あシや

アトテインート東不をもじてあととうおーをやふかせらひと
あかへのむのあひあひうだいをかへきてあきてるかつて
あひかへられらひてひしゆかへりとめぐそじろひくわからせ
かのひよのあひくに虎前まくとぼれだまれじまる北ノアイタ
あひトヘルをあひ彩ひとんきももみゆつらをあひ

アヘンせハヘリヤイレヒラクとよゆゑ
の席ふもとを譲せひあごのもるうアヤアゲレト無ゆゑ

あらまうなるあひまのサアヒチヤんタマシあまくせハヤイも
とひ通すにして通せタリタギニシマムタシマツリトヒタガスのたぐひをもじとせくはなれとく
さまつしたるたあひまをひくあひ北ノアイタミヤアイ
トホモトをうもとあかへてあひね

毛膚ナフ人の原ハラひりぬやアグレトカイあぐくカヒシと
ウントトアアヒレ様マサニをうぎたるうのどう用タニを玉タマレシとうもく紀

ろノトビらうと跡ヒツ跡ヒツをひそく北ノへをもとどかへさうへうねば
うせやとあひまへんスのくをかどふのビ跡ヒツヤイー北ノハ
とうへかしてとあひまスのくをひそむ

どぞのひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ヲヤノ原ハラりけル通ハマそんどくしほのびひひひ

ラセノどくじとひじとひじシタシタシあひとさうわんまひとさうわん
たれりだりキタリを譲シタシるお舍マサニがうぶ様マサニ原ハラ
毛膚ナフ人アヒをうもやアガくく宴マタマタマかづくり



三



魔術をまわすのをしてアラモトアタミ
をまぶさんづらしくかま食をつけろといき
あり當々踏倒あやアガクのとアイタム。御機が
被ふようと徐慢一寸もくらむ。ホンニ驚き
利き移へ男させにしてうらり傍へよらむる車内
外音が烈いやふヲヤく 大勢唐人多うあるから
川のある船まで行くをまつをあゆサア皆沙門
うちまろえて衆ものあらねく角びきルライそん

あふ船えふ河つの移りんとせむとく野喰がる
からうが衆力ちうあらせば河内を出港のあと
たうは町の自販處へかうと 唐年暮へ櫻食ツ
さら合戦の麻矢がさうだらうたうの今のうぢうら
あ間うあ橋の河岸ふ瀬くゐる麻矢を捜あやア
もぐふれらアエシ通次郎さんか若男でもかく
自分轟き通ハシカ物をひのぎけ國のやア自分轟
や廢章あへあいやアあわく としてあふづみがく

橋をうのと日中から海上をス而黒をすがくそんふ
宿をりて痛人をもどめてびひまをとるだけ孤の上
ゆきをむるのづらとやくあけといつだらすあま
孤の一死の上にゆきふ廢を流はりやアけくれねア
死の周易を支那を界を來きまをあんみある
會をだらうあらマモリ多をから薄圓をたくをきくきく
通アシムようの事をだーある子モニそんモようと
会ツつても英吉利の絶頤へゆきやあ吹き女の

方をから夜遠をあき小弟を名代をうきされやせんせ勝を
とこぐあめへいやあらは圓をから便船をりらりよ
日をかへ障レあるがりア女運の孫へんごのう活が次
さん跡ホンニヨ食仲を我國をわくせー女みやア嫁を
わへ男だうり浅をやか國をものそをやタ丸アヲヤ英吉
利ハとんあふ婦人がおけるのうそのうまめ妙びと
色の程をわれも行べ通アシムイヤまのかお鼓を
あ不つつり跡アシムイヤあまれの現金を男をぞ

通アラシト大里アリを過アリ川あまかうだらゆミチモウラ
あらひのひよアヘのまちアシをひびしげふきうモモ
路ルは席シマの
ありアリ

いひゆゑのやうとあるで篠スズカ山ヤマあ

うそんウソンと裏ウツつむせん

北ヒタチ紫シモロコシ後アラシあらう秋アキ

あくまからあびせられるとひの跡シナギ

これも先世の年の紀シニ一イチされ

トかくもさじてもうやどふ城下シテをすみ上アシをきるあれ川の
ありアリ山ヤマ通アリ小河コガからみほれきかのあき

二通アリさん案アシナ内ナカ者の陳海チムヒハジシやあらうアラシ通アリそ

サ後アフタ彼奴ヒノコ蜀シカクをとくトクボラボラとよ思アシナで歩行ハシメの

ありアリ追アリつ通アリから跡シナギゆくうちアリぐれてあ

るお地トチの若アラシさり通アリふふもあらへアリそんかる

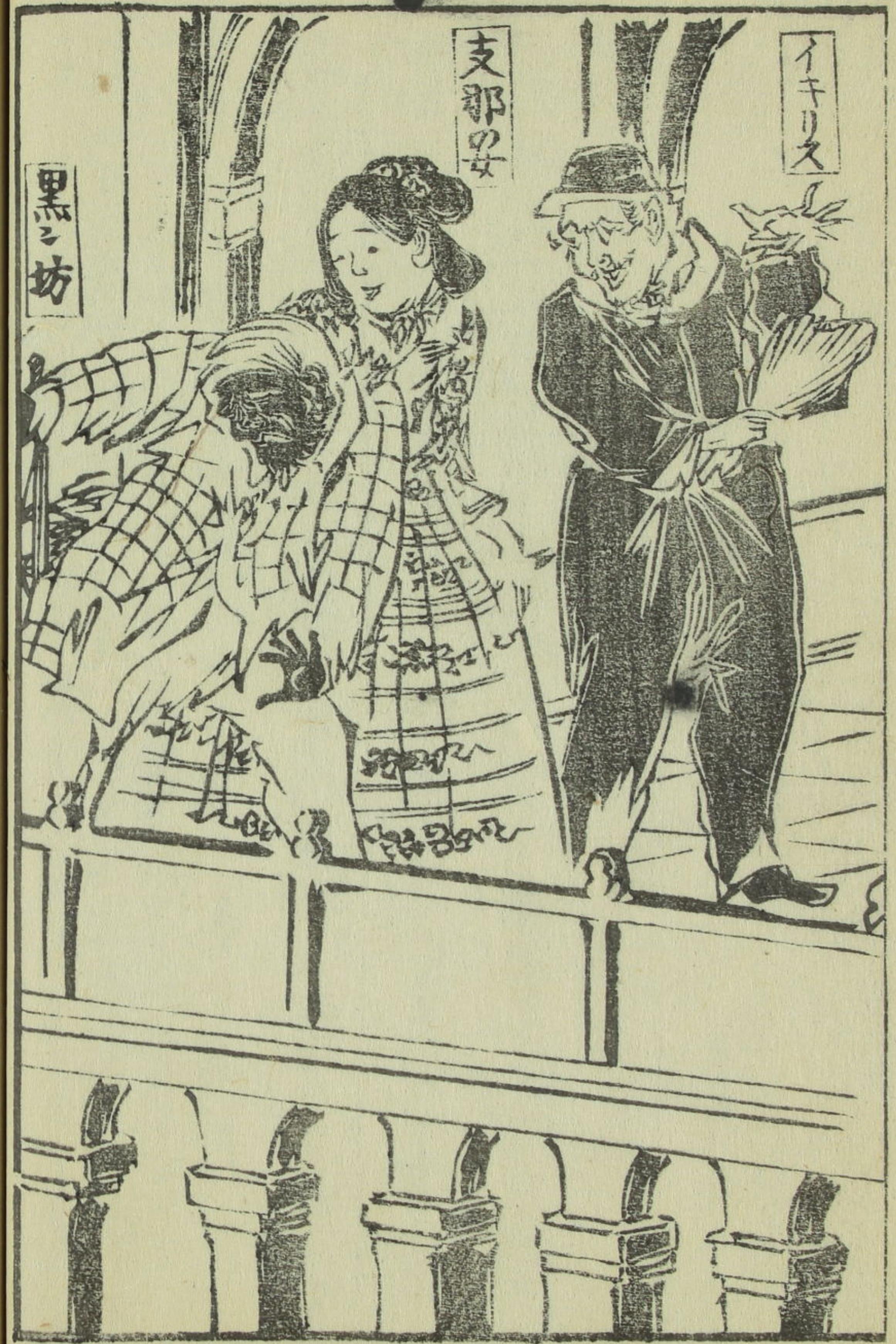
どうでもうう若アラシを一枚イタチ後アラシざらアラシ居アリも

あくまきみてよどアリ「よもアシミテアシミテ一イチ拂アラシやらか

もう通アリぬ妙アリチヤアリ一度アリあくまうアリ通アリそ

かやきふ後をゲハミツのくモロシテ子ヲラトもよふ牛肉
あり北あらわい豚さハあらんをせま年との年とは
の豚さの安やすめども莫なき也をからヨとちう
アリとひらまで猪いのの豚さハ暮くるよりと通とモシ北さへさん
豚さハひむらしく喰く先せんせモナシ。 休とくと殊ことだ
とき宿すりむらわ。 北さハをもにぞふサツサト遠とゑ
らうト北ハさなあたうとかのじやすともりとと休く席せきも通と席せき
もてりともりとある。けしやうのまとのえせまとあとトト
萬ま人じんあり猪いのの萬ま人じんがう。休とモヤくとの
ゆくとくらぬの女め中のとまと那なのとんとすすなり

窓まの事こととと西洋せいよ人じんびと通とモテサヒの萬利ばんり人じん
の事こととと店てんだととくらく家え号あ蒲利丹厄屋ばらとあ
漢かん字じで書かて何なやを外國ほか人じんも食くり極ご人じんを喰くて
あるせ。北さんと牛うしの膾さハねとせと人じんを喰くととる
つと大腹おタドレ。 休とモヤクとの萬利ばんり人じんを喰くととる
酒さけをとくとうとをとくとると麻まゆゆるとと云いととを
北さイとくと一い裏さ奉めいり。 舞まい舞まいそそあらら人じんををああめめることをど
ああくあくあとと舞まい舞まいそそああめめふふれれうう人じんののココウウ舞まい舞まいそそ人じんのの



あふの巻面で牛を齋てゐる黒夷へまをたふ黒イ
せ暗寫から牛を引出でてことある人のあとづらう
説門にて國をさう。ビカーリーからかく詠めて出ツ會
せりやア女子ども國をまひさう通門それでもアノ
同業あやア邊の黒イダケガ男のりのヨ北にして
女のかん娘をタヒツケガやまもつ黒イゼ「化粧
をそむ附みやア石磨の歴を解いて更にまると
ひよとぞ」北「それを考へてお風船といふをき」通門

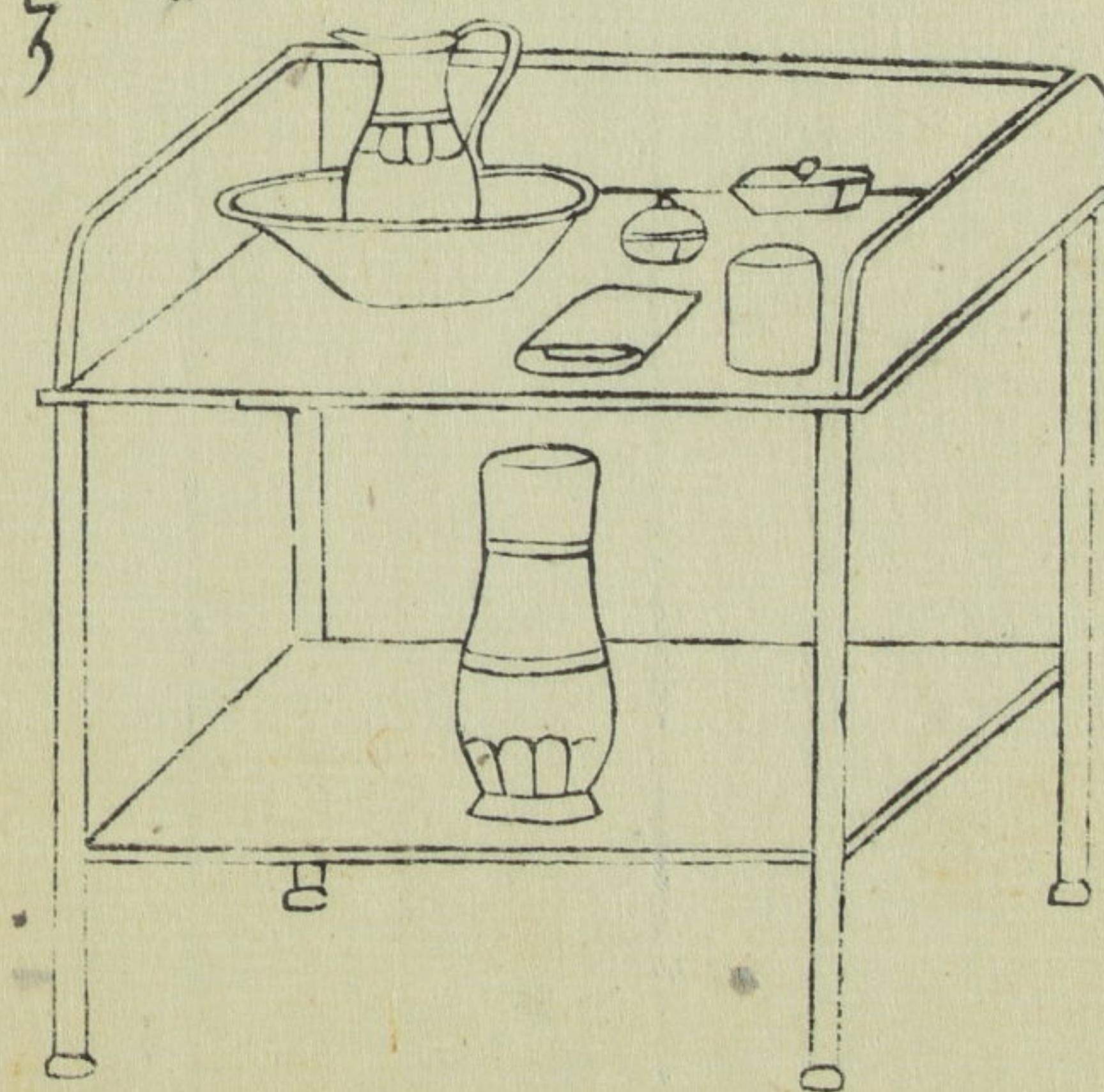
とんび三駆をあしやライ^ノ通えん大後面いゆね
「わらう千原を捨てへきりあまく小さん登を懶して
てきりてたまうね」通門リットヒリ^トが通辞の役

ジモシ旦歌か附とほしやませうああいよと女中のこととそ
北へのをとくからゆくかがやのかもせんことあること○かくて九
字^トあれども^トレしくからむきはれが氣トあさぞ○へがゆふ
ひす用をこじえあるところせんをひそめあるほどのやの事わらう
かとあがきとまぶたをとくわらべかをなちと空手をゆびさしこち
らざれとふさがりのゑ北ハゲ^トねいのをのぢれのやまひと發^トさか
焚きをとくあるあらわらゆうをといふそこの女ハイギリス人妻を通活
扉^トのくわらじとく男^トくろくちよまほじとふわらへ日本女人風衣
めらうのうきえあらあやまくせんうを金の男のをちとてまきの身^トうり

のことをひれてゆくつかの女がなふなちせまひとみふやびどこよめを
をつひのとりふをもるふ北へとみくへそものとみうらへりてゐるに
図の如き器械あり

手水臺 ツイシ
スタンド

一體此器械ハ西洋人の
窓間ニ有る手水鉢の臺
あり茲ヨリ片山氏の西洋
衣食住と題号小冊中の
縮圖を依て趣向の一端と
云ふものを委くハ彼書又記せり



○先をゆへてまづさつひあひてかの女のうわさをとむる人有ると女の
がまでもやゑあむるをモウあらうとまをあがるふをたれてもみぎう
かうまくもと外のれのするをもらもあへもあもりうるにてとあると
えあぐんゆきモウなまらぬとのきあうふかぢうつをキヒトうむせば女ひびう
うせ「日本人胡爲大家請尊歩」ミツアヒタマサシテカクシテト大名あひてゐたる
きもと「日本」カスカスト大名あひてゐたる國のりのゆく西
洋人ふやくれすあれがおのの俗俗をつみことひあり今女の日あく工あく
日やんがめくまととまくらもあへどもをきそやまひととかいの者をよび
をさうあう北へハハヌルのこゑりづく不見ざらねばとひくねのりかうわらう
をあうて口うとらども西洋正船もとくら女へり引のどと死りのまよとある
黒あうまうのますあひぞかれこれとひくねうち女のこみがとまをさうけ
イギリスの人たちのうやのあひと牛と馬のくろとからうあひとやらんとが三人
とせきひとどのあり英「ホワイデユス」ホワイデユストうふの
きもとてびうく北へ少くともうつてあるはなづきたをと北へはめてこまづだつまつて
めくじうあとあてうふえあれあくまうりきえがくふばじうらりーふ

つまびらかのよううそろひあるふあめとくじてはいにあらうかねりとみ
家のがいとれをあゆて今北へアスギリムハルモツツルルロウル
キカムハムルムルをゐ「アーヴィングー」「アーヴィングー」ト
アーヴィングーとアーヴィングーと一里あさのも
カムヒトアーヴィングーと日出の木をもからだマツタケルヘアラ
高木あさくつかはりの木をもや一せらあらこがくとももアーヴィングー^{アーヴィングー}
をもふむきりの木の根スヒラウケモモをたのとホツトドリ

ね
アーヴィングー^{アーヴィングー}ホンニ^{ホンニ}けりうるるるるるるるる
旗高をあるといまゆり^{ヒタチ}原を^{ホリ}原^{ホリ}ほり^{ホリ}
ゲヌカラ歎肉店の女めぐををもぎりけし^{モモ}あつ
國^{クニ}をあやアガハシムハシムの付^{モモ}とく^{モモ}ト

呑^のッて喫^くハラヒをして^{ハラヒ}歛^{ハラヒ}で歛^{ハラヒ}られアリ^{アリ}衣組^{アラハ}を汚^{アラハ}
くのを^{アラハ}通^{アラハ}モアリ^{アラハ}のをりしかると女^{アラハ}のやうも^{アラハ}
すうちア遠^{アラハ}々^{アラハ}大^{アラハ}きを生^{アラハ}あやが^{アラハ}ハア^{アラハ}く^{アラハ}
レアリ^{アラハ}だアリ^{アラハ}ア^{アラハ}大^{アラハ}く^{アラハ}ぢりとアリ^{アラハ}ハケタ^{アラハ}も^{アラハ}
歌^{アラハ}シ^{アラハ}増^{アラハ}めア^{アラハ}ア^{アラハ}のア^{アラハ}ハケタ^{アラハ}りん^{アラハ}ア^{アラハ}セ^{アラハ}でも^{アラハ}
云^{アラハ}のをア^{アラハ}ア^{アラハ}英^{アラハ}吉^{アラハ}利^{アラハ}ア^{アラハ}と國^{アラハ}を細^{アラハ}しき^{アラハ}衣組^{アラハ}
をモジア^{アラハ}ア^{アラハ}ア^{アラハ}のア^{アラハ}ハア^{アラハ}ア^{アラハ}のア^{アラハ}女^{アラハ}
イギリス若^{アラハ}ア^{アラハ}福^{アラハ}のア^{アラハ}うん^{アラハ}ど^{アラハ}も食^{アラハ}魚^{アラハ}ア^{アラハ}魚^{アラハ}

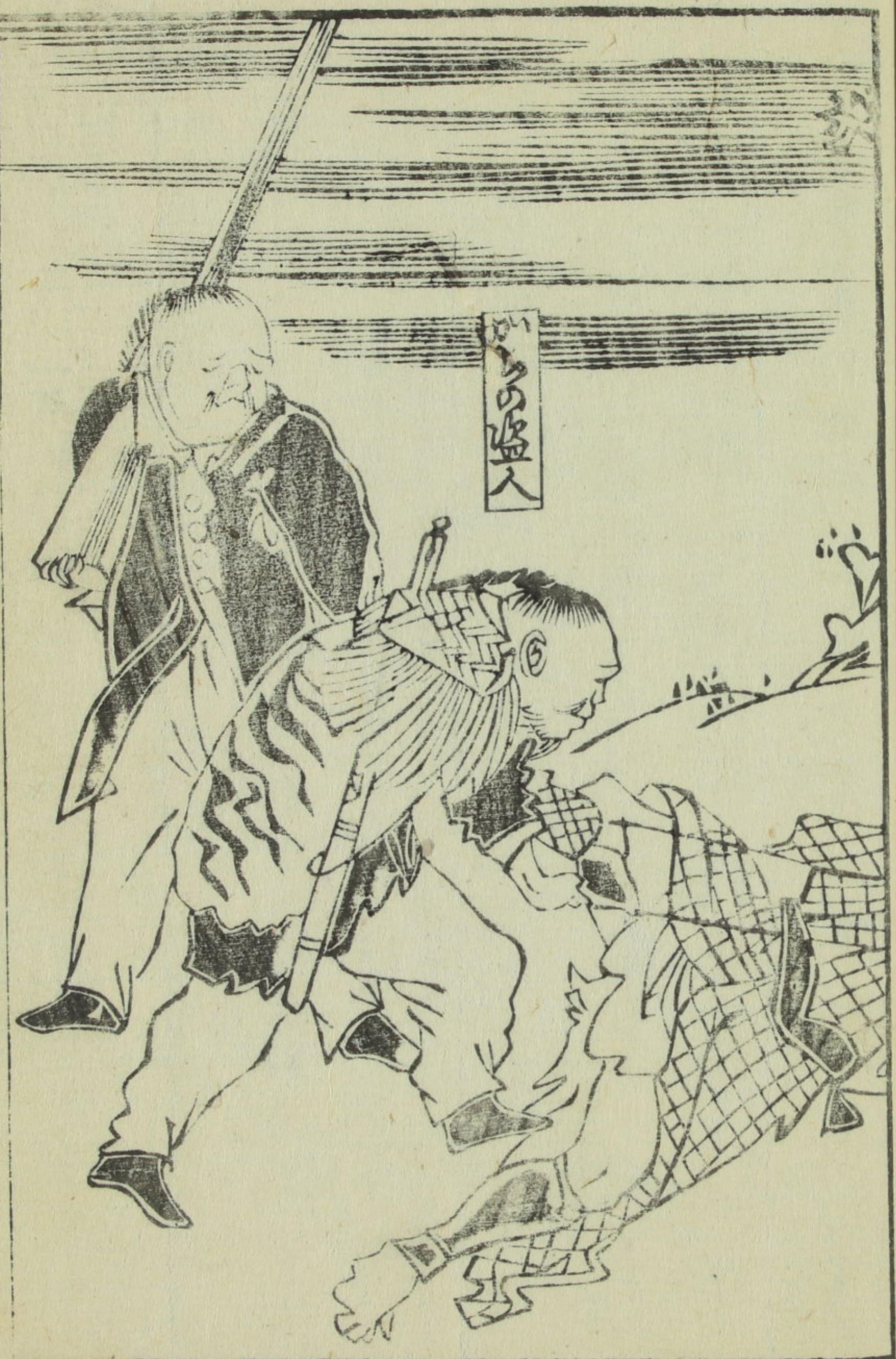
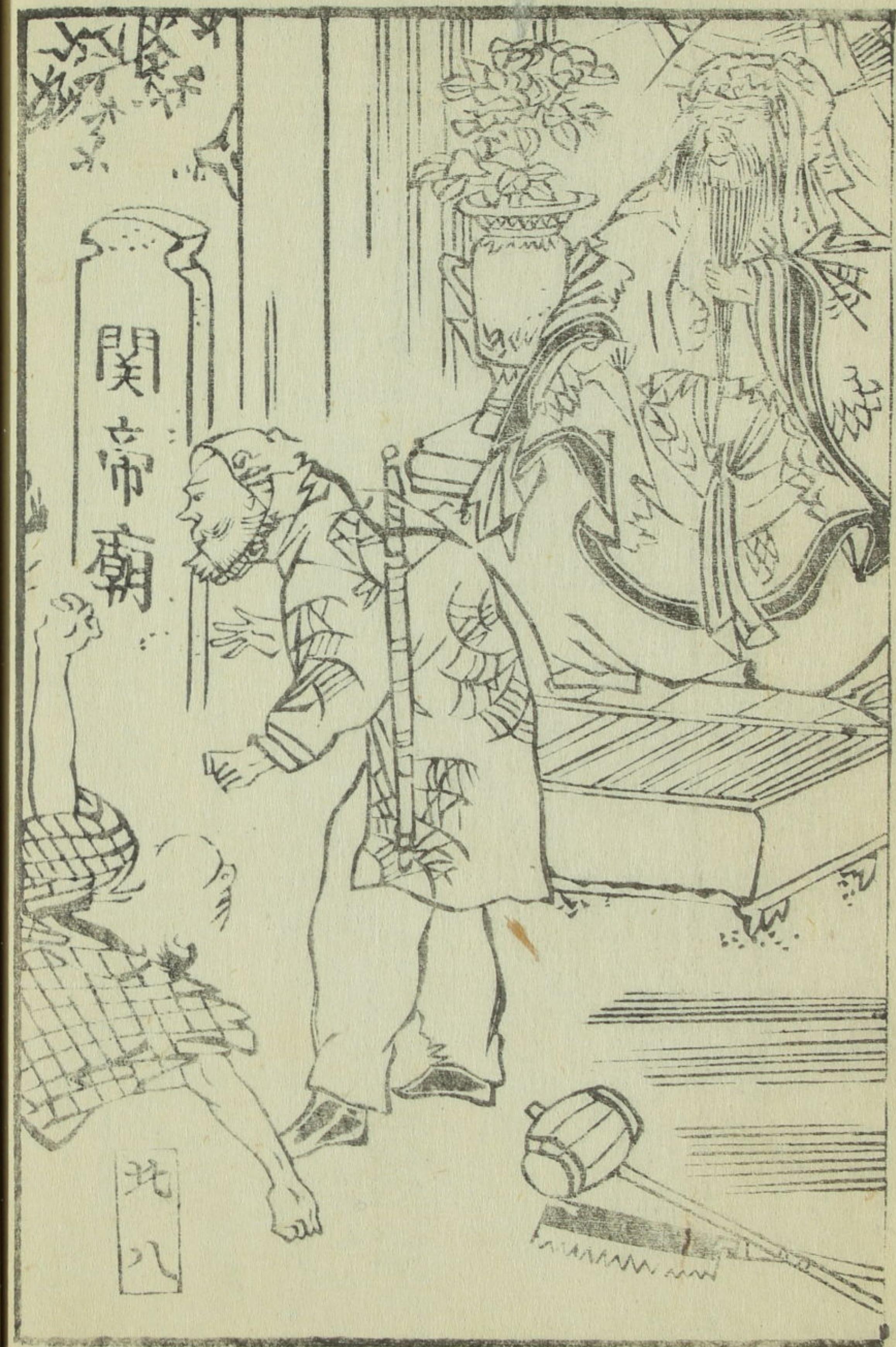
ハエト うちのうちあるてひとうじとあり「ボランシ」と「ラヤー 大愛
ゴーベ 因づくれからうづがゆる三ものあれぞ ゴーベのあひで

ヨイ ても云儀へやアドアリ 亞ウルセ(ヨリヤアドアリ)と
ラトリモトトヨウサカアドアリ あひまをさればをさ
ガセキタトアリタ日のひかまをじろほてむと此ニシテ「神始
キヒトニシテ」をがくととあひとあひりづくらがをせしもあへそ「神始
スンやアイ通ひスンヤアイ日ナ人やアヘイリトヨビアゲラ
マクシケレヒトミタギヤアヘンモのちのスヤニキミの夜ミチ物モキミカ
ヨシホリハ歯のねもあヘギモジアリ ひのうちもあヘビシ海下のうち
ヒキツヒシテスノヒモアモアバニハ重ねたんのむきあづモ足りよも喜び
ゆきうるまきあづ。ときれどもものかくらは一けんのかまゆりとみやアスル

モシ西せんあせくあつのとやもモシヤ日本ノ人ぞじせく
地ぐであとけたとスモモぐくのをとひをせあつあとあくと
モの西よとまづけておもての戸をトシくなせどこくさればとおもを

チモライモシ

トヨビキアラハアカウアカのけじくわくヘ戸キリ」と
ヨリスラモソんけゆあけまたひくじくよしと そじてあるわとおとおれがあヘスモ
うの署人多ホキモアリのゆうあるうのまき多キアシヒヅキツモテカニヒ
キツキのひくじく多モアリ 一因スラヨウルハキヤウトイヒテヒロトカレ
製番からもをもくつらもとそのまき多キをひれつけ毛毛(シモモ)ヒヅキツモテカニヒ
ケリ。されば北ハが國ホ一けんの小廟と曰ハ國帝廟とモ國廟をもつて居る
カニモアカウからだか一邪ふひとくらひづくからまうとおれ食を
あらは六夜國不國相の本さうのまき也くなまうく無人あくしもする
事かとのひづくふニヨウのどくかまうとびづくじしき國をまじたるなり
カクルヒトスラク山路の道より地國の盤へはめ人被勧き



のあざけとさへあからじが國帝廟の前をまぎるとそ
北八ヶ廟の中より奉身外へ作向よ例見てる姿を厚
き立どりめりゆかうやきあがらそのとぞふ
あつどひ一人ふとまづてゆきをとくじたをもじして北八ヶ
廟の御殿腰中身のまわりあらもとき奈立しけ
○えふ跡跡通に廊あらの若ハ北八ヶ便所
ウシしもとよ狭うて酒汲かにぬてども一一向よ
ゆりあざれい如何せやと思ふもよむにの黒人

牛切の裏表等の間をじく走ありあらを五巻
てを込不あきん形相あるみをねりやせんと通沿廊
ハ黒人等を制止つ莫活をねく活勞を問ふ
同様の男が北へを出家家の婢女をどうしてあらぐ
ある乱物をもくほしきが捕てて役所不連ゆうと
あらもち裏にとり逃げしかばけよハ同様のりゆう
ねをあうとねの和小立役の格子を喰いて二人り
の争ひきぬぐと云はるもふ黒ラバ婢女のお役を

摸ね室内の考を繰びじて商ひを場びる傳ひ金
を出そべしと外圓流の掛合よどうく若手か
數枚して呑たる濱の碑も醒界ももくの仲ゆく
こを立出するあくも共へほ方へ迎候しや回体ふ
飽まく雅琴をかけ自己の魔さうの觀者ゐてゆ
如をあつたるやうん出會がおどしてくわんとゆ
來しきを尋ねるよ日の暮るまで出あひを向ふ
縦あく扇りしあんと縦幕屋へひまたかくりく

きみどもあざりどす事をとりの事をあづらへ北への
今日のふ始末様くひあくどね百里を疊したがの
ことまさら捨てよまれ程ば車ひ先割素肉よ蟹
ちる鷹海へ三人不とぐれゆう事とあるよ書くを
詰食せ度くるを僕ひ折打を禮とせうどその余
籠舎の男を二人を程もう喰吼ナルヌラ瓶
を敵を敵をあぐら城下の横町裏通うを遠道
とたゞよれど終末さるふられざれば身へぞられ

た
きも
百イミリ。アウトカドン。チヤシ
通ふのく
北ハヤアイリ。トキニ通ハさんアノ破家聖廟ハ
御人修キヤアガムラ。園ツたとんちキヅキ。通
モうサ年廢を近かし。もの裏にうきとら
ゆキモコリヤ田舎ミチ。送エリ。延んで禮物をす
つまれて。ふ遠くね。ヨ跡。起船の物ハ金毛九尾
白面。とりうち化し。もみ。金。のつて。粧用を薦
畫。一。晝せたり。誰の原を參ふと。よせて。北走

をする怪へ。あととおやアモひのヲ。通モうサ大槻
被服。が多濫を見近レ。でもうまき。あタラビアンの如
ふ化。うき。ちある。まく。上。眼。ミ。瞼。を。お。ひ。せ。く
お元。お生。おあて。サ。の。揚。も。が。小。便。捕。そ。や。かん
匠して。天窓の毛を。喰。切。つ。そ。ち。や。く。一。場。色。の。か。青
剥。と。そ。も。き。あ。り。く。だ。ら。う。仰。し。て。も。危。々。サ。子。
どうか。か。苦。勞。あ。ぐ。ら。各。方。よ。れ。ん。で。田。舎。道。を。モ。ウ
一遍。づ。縁。て。から。う。そ。も。ん。か。せ。く。も。り。も。か。う。合。

だら仕方^{一カ}が極^{トヨシ}へやれりあれりよをまよとおもひ^{トモ}もれを
通^ス郎^{マサ}ものどくあつま般人^{通^ス}まひどめ^{トモ}く 日本^{アリ}あんや
アリ^{太郎}やつまんさん^{アリ} 即便^{アム}帰^{タク}来^シ日本^{アリ} まよひうる
そかく^ミきみらひく やすんさんビイ^ハブウ^ハ
きみ^ミドン^ハ チヤ^ハチヤンカン^ハドン^ハピイリ^{ト山}ある
なうむにふかの國^ハ帝^{マコ}の^ハふあむ^ハと^ハき^ハしてたまれる
をまう^ハあめのまのまけの^ハ日^ハかく^ハふく^ハと^ハめられ^ハ游^ハ海^ハ
をまう^ハふをまう^ハちゆうじん^ハしつ^ハ 詠^ハヤ^ハとすや^ハ北^ハア
とす^ハそれがまひ^ハ北^ハある^ハとお^ハま^ハ
通^スル北^ハガキ^ハも^ハだ^ハ死^スる^ハヨ^ハ大^ハ喜^ハ

通^ハヲヤ^ハホンニあり川^ハ猿勁^ハどりしてあん^ハ
婆^ハと^ハ往生^をあく^ハう^ハ瑞^ハト^ハも^ハて^ハを^ハも^ハて^ハ
イヤ^ハアヤ^ハ圓^をひ^ハの^ハび^ハあ^ハか^ハと^ハよ^ハあ^ハく^ハ
ダ^ハ向^ハし^ハ御^ハの^ハま^ハと^ハへ^ハ通^ハる^ハり^ハ詫^ハか^ハり^ハむ^ハ
ト^ハあ^ハり^ハの^ハみ^ハを^ハた^ハぬ^ハ 北^ハヤ^ハア^ハイ^ハ 北^ハア^ハム^ハ南^ハア^ハム^ハ
うち^ハ旅^ハ郎^ハち^ハも^ハ五^ハ 通^スる^ハも^ハく^ハ水^ハ
ち^ハ 通^ハヲツト^ハダ^ハそん^ハリ^ハ水^{ヨト}あ^ハれ^ハの^ハあ^ハを^ハひね^ハ
つ^ハね^ハち^ハと^ハあ^ハり^ハ入^レる^ト北^ハヘ^ハど^ハう^ハい^ハと^ハこ^ハう^ハや^ハす^ハ間^ハ
ひら^ハあ^ハる^ハを^ハま^ハく^ハま^ハく^ハの^ハう^ハど^ハう^ハて^ハあ^ハだ^ハぞ^ハふ

北アモリヤ跡はさん通さんをもぐりどりし
さあ_ルス_ル 称_{シメ}ヤイ_ムアラス_ルあらまつてのうあんび
どきしのばれうであくこをあんであんあぶをうろ
つれまくとく圓をもくしきおアドヨにて若わ_ル
ドムやツルルア_シ若わ_ルトノトドウムをもぐりうみを
あらうやうれあくとじかんづやくふかうひじたやうまくわく
牛やをもげてきも不まうひもあむのをよへとタのたけ玉あやり
あるひともあうとがりうづののふりをめし_ハむとくのあまうね
きまうせあくいんづるもすおもするうまうれりのきみをさられ
しゃくうふあちに_テとがるよ通は席林は席のきすれにじろの
かきをとるに閑帝の像りナシナド_カうのうちあたぢたると

えりありこまくとくとまをくせあらん又あうとうふすり
ううまくとくとまのゆま人のあがまことそりきりとものよ
をい_ル九_ノ前あもやアニセ志であじうの閑相の本懶を
まみ六_ノ此のう子あらアヌ日本の方懶俗の捨_カく廢_カの
祀_カうこのう子あらアヌ日本の方懶俗の捨_カく廢_カの
大化_カりのうかどきしのとせうたら行_カうとほして
國をまし_カとまくるりホンニ雲韋速_カうにと車_カ
だらう_カとまが_カアル_カハアンサノ_{シメ}コレ酒_カ
ども_カあやア_シハエ_カよを_カをかけく方
乱_カちきをやらせるゼエ_カコウ_カとんごとくあきだ



通あんちきふぐる抓まれてびらう高しまべ
ききうつりそぬよりりでてくま那放心あとぞ唱家
やんやくとくす 通さん學の磨よあくからモシよ
うへ聞してあくん寄せブルトガタトトアヌ
小まきのこもくぶらもあんやり
どもうとれいのうらであらあふ

牛原うらひきゆきをかへ署晴よ

うき日を聞こあくわあくわ

タウトあれよ一首うんじ

から風の音を旅ひあす城や
このよ處を跡の下夕馬

船はまよそうち蓬立旅宿にしてゆけり

○第三編ハ萬國舟游の清聰媚家登橋
のあじきより「セイゴン」に渡海の船頭雅
風の一回船中の櫛櫛うんと引流き生
板仕ひる少津判を易ふ

西洋道中膝栗毛二編下巻了

東海膝栗毛 中本
道中 全十八冊

木曾膝栗毛 中本
道中 全廿五冊

萬國 西洋膝栗毛 中本
航海 全三十冊

奥州膝栗毛 中本
道中 全十五冊

亞墨 西洋膝栗毛 拾遺
夜話 近刻

滑稽五十三驛 切付
全十冊

東京書林 本石町二丁目
梶屋伊兵衛
梶屋喜兵衛

